

様式第1号

会 議 録

会 議 の 名 称	平成23年度 第1回 所沢市公共事業評価委員会
開 催 日 時	平成23年8月29日(月) 午後1時30分から午後4時まで
開 催 場 所	市役所高層棟3階 301会議室
出 席 者 の 氏 名	佐野友紀、杉崎和久、小澤紀美子
欠 席 者 の 氏 名	大原一興
説 明 者 の 職 ・ 氏 名	
議 題	(1) 本年度の公共事業評価委員会の進め方について (2) 評価対象事業に係る概要説明 (3) 評価対象事業に係る現地視察 (4) その他
会 議 資 料	○ 資料1 平成23年度事務事業評価表(公共事業用) ○ 資料2 所沢市学校施設耐震化推進計画 ○ 資料3 所沢市学校施設耐震化推進計画(ダイジェスト版) ○ 資料4 所沢市学校施設の耐震化状況について ○ 資料5 学校施設の耐震化の推移
担 当 部 課 名	教育施設担当参事 田中文雄、教育施設課主幹 森沢清行、 教育施設課副主幹 青木操、教育施設課主査 小川和彦、 政策企画課主幹 林誠、政策企画課主任 中村順史 総合政策部政策企画課 電話 04(2998)9027

様式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
事務局	<p>(1) 本年度の公共事業評価委員会の進め方について</p> <p>当公共事業評価委員会については、平成 19 年度に立ち上げ、公共事業の評価を外部の視点で行っていただくということで進めている。これまでの活動内容としては、平成 19～21 年度の 3 年間の計画で外部評価の必要な公共事業について評価をし、平成 21 年度をもって一巡目の評価は完了した。平成 22 年度については、外部評価を必要とする新たな公共事業の該当がなかったため、公共事業全般についてご意見をいただくということで当委員会を開催したところである。</p> <p>本年度については、「学校施設耐震補強事業」の 1 事業が外部評価の対象となっており、ご審議をいただくところである。本年度の進め方については、本日の第 1 回目では、担当課より概略を説明させていただき、質疑応答を行った後、場所を移動し昨年度耐震補強工事を実施した若狭小学校の視察をしていただく。次回の第 2 回で、本日の議論・視察を経て評価をしていただくということで予定している。</p>
	<p>(2) 評価対象事業に係る概要説明</p> <p>配布資料に基づき評価対象事業の概要説明がなされた。</p> <p>評価対象事業：「学校施設耐震補強事業」</p> <p>所管課：教育施設課</p>
佐野委員長	<p>耐震化を当初平成 27 年度に完了予定から平成 25 年度に完了と前倒しをしているが、スケジュールとしてはどれくらいペースアップしているのか。</p>
田中教育施設担	<p>まず、平成 7 年の阪神大震災を受け、翌年の平成 8 年に耐震診断</p>

当参事	を始め、1年に1校前後のペースで実施していたが、早急な安全の確保が必要ということで、平成19年度に耐震化推進計画を策定したという経緯がある。耐震化進捗の状況としては、平成18年度末で46.4%、平成19年度末で48.7%、平成20年度末で54.5%、平成21年度末で59.8%、平成22年度末で69.8%、今年度末で81.9%である。今年度は24棟という多くの棟をこなすことで率が大幅に上昇するものである。残りの部分については平準化し平成25年度末で完了する予定としている。
佐野委員長	耐震化推進計画のなかの計画の進め方で、IS値0.3未満の施設の耐震化を平成23年度までに完了するとしているが、0.3未満のものは現在あるのか、それとも改修済みなのか伺いたい。
田中教育施設担当参事	文部科学省からはIS値0.3未満のものは平成23年度中に耐震化を完了すること、ただし特別な事情がある場合は平成24年度までに完了することとの見解が示されている。平成19年度の耐震化推進計画では平成23年度での完了を目指していたが、財源の都合により計画どおりとはいかず、平成24年度末に完了する予定となっている。
佐野委員長	生徒が長く滞在するような校舎で、平成24年度までかかるのはあるのか。
田中教育施設担当参事	現在の計画では、三ヶ島小学校の1棟のみである。
佐野委員長	IS値と、施設用途で優先度はつけているか。
田中教育施設担当参事	児童生徒が長くいる校舎を優先で考えている。それに加えて、同じ学校において、校舎と体育館を同時に工事するのが効率的であるという点を考慮して工事の順番をきめてきたところである。

小澤委員	配布資料「学校施設の耐震化の進捗率推移」のなかで、2次診断結果 I S 値 0.75 以上というのはどういったものをさすのか。
田中教育施設担当参事	旧耐震基準で設計・建築された施設であるが、耐震診断をした結果が 0.75 以上の I S 値であったものをさしている。
青木副主幹	当市は I S 値の目標値を 0.75 でとっており、旧基準で設計・建築された建物であってもそれを超えるものは補強の必要はないと判断している。国土交通省の基準値は 0.6 だがこれを 1.25 倍し、より厳格な基準を設けているところである。
小澤委員	<p>この資料が市ホームページ等で公開されたときに、この内容ではただいま説明いただいた内容を読みきれない。</p> <p>今年の 3 月に起きた東日本大震災で、津波による被害は別として地震による被害が一番ひどかった建物が東北大学である。この大学は山の上に建っており、たまたま山の周期と建物の周期が一致していたことによりものすごい壊れ方をしてしまい、研究にも教育にも支障をきたしてしまっている。また、都庁ですら天井が落ち、封鎖したということもあった。</p> <p>このように耐震化だけでは、安全が確実に担保されるものでもない。注意を喚起する意味でも、厳しい財源のなかで学校の耐震化を進めていることについて、市民に理解を求めていくことも大事ではないか。市民にもわかりやすい資料の提供に努めるべきである。</p>
青木副主幹	今回配布した資料のほか、より詳細なものについても公開をしているところである。
佐野委員長	表の読み方等解説はあるのか。
青木副主幹	あるにはあるが、専門的な用語が多いので難しいところである。

杉崎委員	<p>所管課として、今回の耐震化以外で定期的な学校修繕などはあるのか。耐震工事と合わせてそのタイミングで修繕も実施するなどの計画はたてているか。</p>
森沢主幹	<p>当市には耐震化推進計画のほかに公共建築物修繕計画という計画がある。この計画に基づき、平成22年度まではある程度、耐震化工事と合わせて外壁塗装と屋上防水といった学校施設修繕工事を行っていた。しかしながら、今年度については、耐震化をメインとして、修繕工事は行っていない状況である。</p>
杉崎委員	<p>評価としては耐震化を今後も推進していく以外ないとすると、今度はいかに効果的にやるかという話になる。建物として修繕が必要なものや、新しいニーズに対応するようなものがどのように合わせてできているか。それとも、耐震化以外の部分は別の計画を持っているのか。</p>
森沢主幹	<p>耐震とその他の工事を合わせてやるとなると工事量が多くなり、夏休み期間で終わらない。そうすると仮設プレハブ等に対応する必要が出てくるので、対応は難しいところである。</p>
杉崎委員	<p>耐震化以外のことには手が回らないという状況なのか、それはそれで別の計画のなかで対応されているのか現状をお伺いしたい。</p>
森沢主幹	<p>外壁塗装と屋上防水については、同じ足場を使用することから耐震工事と合わせてやるのが効率的であり望ましい。また、教室・廊下の修繕についても耐震工事が絡む部分については、合わせて工事を行っている。</p>
杉崎委員	<p>今後は災害時の避難場所となったときに、バリアフリーなどの避難場所としての機能を満たしているかという視点も必要になってくるがそこまではっていないということか。</p>

青木副主幹	<p>そのとおりである。修繕計画自体もなかなか思うように進んでいない状況であり、現在は耐震補強を最優先と考えている。</p>
田中教育施設担当参事	<p>学校施設については昭和40年代50年代に建築されたものが多く、今後は更新の時期を一気に迎えることとなる。今後は、耐震化が終わったところで、計画的に大規模な改修を行いながら長寿命化を図っていきたい。そのなかでバリアフリーといった視点も入れていきたい。</p>
小澤委員	<p>自民党政権下においてエコスクール化といったプロジェクトがあったが、太陽光発電をしようとしたところ耐震化がされていないのでパネルを載せることができないという事例があった。耐震化とそれ以外の付加価値をつける工事について、できるところについては一緒にやるということもあり得ることであるが、それにはきっちりと計画を立てないといけない。</p>
佐野委員長	<p>天井・内装部材の耐震性についても今後は考えていかなければいけない。どの段階で更新していくのか検討する必要がある。これは大規模改修のときか。</p>
田中教育施設担当参事	<p>国のほうからその辺りを促す通知も来ているが、財源の都合上修繕計画も滞っているという現状があるので、耐震化が全て完了した後に着手していきたい。</p>
佐野委員長	<p>天井・内装部材については耐震診断の項目には入っていないのか。</p>
田中教育施設担当参事	<p>入っていない。</p>
佐野委員長	<p>予算に関してお伺いしたい。耐震化は推進する以外ないとする、その方法・価格の適正化についてチェックがゆるくなってしま</p>

<p>森沢主幹</p>	<p>うことも想像されてしまうが、そういった適正化についてはどのような取組をしているのか。</p> <p>耐震補強工事の耐震方法については、施設の内側にプレスを入れる在来の工法をメインとして考えている。一般的な工事であるので、どの業者でも対応できるというところである。そのため、競争性が担保されていると考えている。</p>
<p>佐野委員長</p>	<p>教室内部にプレスを入れることで、採光など内部環境の悪化が懸念されるが、そうしたことを緩和するような対応はされているか。</p>
<p>森沢主幹</p>	<p>照明器具の改修、内部塗装等で対応している。設計の段階においては、教室の全ての窓にプレスが入らないよう配慮をしている。</p>
<p>佐野委員長</p>	<p>プレスに登ってケガをするということはないか。</p>
<p>森沢主幹</p>	<p>手すりをつけるなどで対応している。</p> <p>(3) 評価対象事業に係る現地視察</p> <p>若狭小学校に移動し、所管課の説明を受けながら特別教室や体育館など現地の視察を行った。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>